

THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU

NETWORK NASU

CHARTERED 1995



那須ワイズメンズクラブ

2023~2024年度 No.287

11月報

那須クラブ会長 主題

「若者と共に」成長しよう



強調月間：BF

i GO・STEP

ワイズデー (10日)

今月の聖句 ヨハネによる福音書 17:21
父よ、あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内にいるように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしの内にいるようにしてください。(略)

11月第1例会(日本文化を知ろう 茶道)

日時：11月23日(木・祝日) 午後1時30分~

場所：遠山定匠師宅 那須塩原市二区町369

内容：日本の文化を知ろう・お茶の会

会費：1,000円

参加者は、16日(木)までに河野会長(090-1997-2077)に連絡。

コロナ対策として、「三蜜」にならないように注意

司会：田村 修也 副会長

開会点鐘 会長 河野 順子

会長挨拶 会長 河野 順子

ワイズソング斉唱 一同

ワイズ信条の朗読 一同

聖書朗読・祈禱 田村 修也 副会長

ゲスト紹介 会長 河野 順子

茶道についての講話 遠山宗匠師

茶道体験 茶室にて

ワイズ・YMCA報告

YMCAの歌 一同

閉会挨拶・点鐘 会長 河野 順子

地図は別ページ(P7)にあります。

その後、12月のワイズ役員会の予定

2022~2023年度 主題

国際会長：(IP) ウルリック・ラウロセン(デンマーク)

「輝かそう、あなたの光を」

アジア太平洋地域会長：(AP) 利根川 恵子(川越)

「改革のための光となろう」

東日本区理事：(RD) 山田 公平(宇都宮)

「未来のために今、学びと気づきを！」

未来のために、自信を育み、真の喜びに出会う！」

北東部長：大久保 知宏(宇都宮)

「クラブのミッションを育てよう」

クラブ役員

会長：河野 順子

副会長：村田 榮・田村 修也

書記：藤生 強

会計：村田 榮・鈴木 保江

担当主事：平山 雄大

ブリテン：田村 修也・村田 榮

10月例会データ (出席率：100.0%)

在籍者 8名

出席者 8名 メネット 3名 コメット 1名

11月 Happy Birthday

11月7日 原田 明子ワイズ

11月14日 河野 順子 ワイズ

・12月第2(役員会)例会

日時：11月23日(木) 例会后

・北東部評議会

日時：11月25日(土)

場所：仙台

・12月第1例会(北東部大久保部長公式訪問・クリスマス礼拝・祝会)

日時：12月9日(土) 午後6時

場所：日本基督教団 西那須野教会

巻 頭 言

平山 雄大

子どもの家の様子

今年度より、野外・ウエルネスから部署が異動となりアフタースクール事業部Cブロック統括管理者となりました。Cブロックは戸祭・昭和・桜・細谷・宝木・西が岡・上戸祭地区7拠点の学童保育の運営を行っています。とちぎYMCAでは2021年より宇都宮市から子どもの家（学童保育）の指定管理を受け、今年で1期目の最終年度となりました。

子どもの家は指定管理事業となる前は各地域の自治会や保護者など地元の方々の方々の力によって運営がなされてきました。そのため、各学童には特色があります。手作りおやつを提供している学童、子どもたちで使っている場所は子どもたちで掃除をする学童など様々な特色があります。しかし、共通していることがあります。それは子どもたちにとって「第2の家」（居場所）ということです。子どもたちにとって家のようにリラックスし自由に過ごせる場所を目指し、各拠点において力を振るってもらっています。また、子どもの居場所としての側面だけでなく、保護者の働き方の支援にも繋がっています。

来年度2期目も引き続き、とちぎYMCAがC・Gブロックの指定管理者となりました。

保護者が安心して働ける、子どもも安心して豊かに過ごすことができるそんな学童を今後もとちぎYMCAでは展開し社会をより良くしていきます。

追伸

この度、日本キリスト教団西那須野教会で12月24日(日)のクリスマス礼拝で洗礼を受けることになりました。現在、洗礼に向けて潘先生の下で勉強をしております。

どうぞよろしくお願いたします。



2023. 10.14 10月例会（アジア学院収穫感謝祭）於：アジア学院

10月第1例会(アジア学院収穫感謝祭)報告

日時：10月14日(土)午前9時～

場所：アジア学院

出席者：河野、田村、村田、原田、藤生、鈴木、張、平山の各メンバー、田村、藤生、村田の各メネット、田村有希子コメント

10月例会は、恒例の「アジア学院収穫感謝の日」へのブース参加でした。「アジア学院」は那須ワイズ活動エリアの中央部に位置し、那須ワイズそしてとちぎYMCAも昔から色々関わらせて頂いています。

昨年同様1日のみの開催でしたが、『新型コロナ5類移行』を受け来場者の人数制限がなくなり、朝から夕方まで送迎用マイクロバスが運行しており、たくさんの来場者がありました。また私たちの様なブース参加団体、学生・社会人・シニアなどの多くのボランティア、そしてアジア学院生とアジア学院スタッフなど、たくさんの人で迎え入れ、とても賑やかな1日となりました。そして収穫祭を祝うような、晴れの過ごしやすい天候でした。

那須ワイズのブースは例年同様、古着や小物などの「ミニバザー」、収益をユース支援としている「しいたけ昆布」の販売、リンゴの販売、村田メン宅で取れた秋の草花や木の実などの詰め合わせ「季節の贈り物」販売を行いました。ブースの位置が入口近くにあるのも功を奏してか、開店と同時に古着を手に取り買っていく外国の方(アジア学院は国際色豊かです)がたくさんいました。もちろん日本の方もたくさん来店していました。古着も小物もかなりの数が売れていました。



またYMCA国際担当スタッフが担当したYMCAブースも設け、北タイ山岳民族の民芸品販売と「マンカラ」というアフリカや中近東・東南アジアにかけて古くから遊ばれている伝統的(ボード)ゲームの体験会を行いました。こちらは子どもたちが多く訪れ、マンカラを楽しんでいました。

収穫祭は1日開催でしたが、来場者も参加者も思い思いに楽しんでいる様子が伺えました。感染症への不安がまだ残る中で来場される方々はアジア学院の収穫祭を本当に楽しみにしており、そしてアジア学院を支えたいと願っている方々だと感じました。それだけ魅力のあるアジア学院をワイズとして微力ながら支えていることに誇りを感じました。来年は多くの参加者で溢れることを祈ります。

アジア学院には、とちぎYMCAを含めて、22,000円の献金をいたしました。

10月特別例会 アジア学院留学生との交流

会長 河野 順子

10月の例会は、毎年アジア学院収穫祭にバザーを開いています。今年も晴天に恵まれた良き収穫祭に参加しました。したがって、同月にアジア学院とのかかわりを持つことは、先方にとって負担ではあるかもしれなかったが、那須YMCAのユースリーダーたちは、「国際」が冠につく大学に所属しており、アジア学院が各国から留学生が来られているのに、この社会資源を活用しないことはもったいない事と思っていました。

アジア学院にお願いして、交流を行うことが出来ました。

- ・エルピンさん(ハイチ)
- ・ジャコウさん(インドネシア)
- ・アミさん(シエラレオネ)
- ・グータさん(ミャンマー)の4人と通訳の大柳由紀子先生が来られました。

当方は

- ・こうリーダー
- ・メンマリーダー
- ・セップウリーダーが参加し、潘ご夫妻、ワイズメンとメネットが参加、(メネットは裏方で食べ物接待)。

目的：自国で一番気になること(家庭、政治、政策、貧困、夢等)を紹介し合い、お互い交流を図る。

方法：自己紹介と自国の紹介をし、リーダーは現在の関心事を話し、それらについてフリートークをしました。

感想：留学生からの情報は、自国の紛争や貧困の中で今、彼らはこどもたちの将来を見据えて、ワークショップなど支援している。また、農業では薬を沢山使っていて健康を害しているの、有機農法を指導している。教育を受けていない人たちへの支援等々。

リーダーたちは、旅行や観光地など案内してしたが、大柳先生はそんなこと言っていない、観光は贅沢と思っていると。

時間が足りないくらいお互いが打ち解けてきたところで、今回は終了。

その後、メネットたちが用意してくださったチャーハンや食べ物、飲み物を食して終了としました。

リーダーたちは、平和な家族に恵まれ守られ、与えられているのだという事が、言動から感じました。留学生たちは、自国の離農や健康問題など積極的に「なんとかしなければ」感がありました。

後日、担当主事から「リーダーたちは、『母国が日本で良かった』と言ってました」と。

交流会に参加したリーダーよりの感想文

渡辺航平（こーちゃんリーダー）

今回のY's例会に参加して、4カ国の留学生の方とコミュニケーションをとる中でそれぞれの国での情勢、環境問題、貧困問題などについて学ぶことができました。これらは留学生の方々が実際に直面している問題であり、実体験を含めた話を聞けるといっても貴重な経験になりました。特に農業について「体への悪い影響を知らずに利益だけを求めて使ってしまった」という話は、将来医療現場で働く身としてとても考えさせられる内容でした。また、そのような問題に対して自分たちに何が出来るのかを考える良いきっかけにもなりました。これを機に様々な国での問題により関心を持ち、積極的に関わっていったらなと思います。ぜひ機会があればまたY's例会に参加させていただきたいと思います。

佐藤孝輝（めんまりリーダー）

この度は、他国の方々とお話しできる場を設けてくださりありがとうございました。普段のニュースなどでは、日本で起こっていることや他国の大きな事柄などが報道されています。そのため、今回お会いしたアジア学院の学生さんのお話しは世界で起こっていること知るきっかけになりました。

話をきいてみると問題は国々によって様々で化学肥料による環境破壊や紛争問題など、どれもニュースなどでは知ることができなかった事柄ばかりでした。簡単に解決できるようなことではないとすぐに想像することができました。そんななかアジア学院の方々は家族のため地域のため国のために日本へ来て、無農薬栽培の方法など問題解決のために活かせることを学んでいることを話してくださりました。

今回のアジア学院との交流を通して、自分から誰かのために行動することの大切さを感じました。私は薬剤師を目指しているので数年後、免許を習得し

病気に悩んでいる方を少しでも支えられるようになりたいです。

佐藤彩華（せつぷうリーダー）

10月28日に行われたアジア学院の方との交流会に参加させていただきました。今年はコロナが2類から5類に下がり、対面での交流ということでアジア学院の学生の方と食事を一緒に介しながら交流を楽しみました。交流会では、それぞれの母国の現状や課題についてスライドを使って分かりやすく教えていただきました。この交流会で、他国の問題はほとんど日本のニュースなどで放映されていないこと、間違った認識がされていることを知り他国の問題についてほんの一部しか認識しておらず少し恥ずかしい気持ちになりました。

今回の交流会で他国の課題についての正しい知識を再確認するだけでなく、将来の仕事を踏まえながら、私なら何が出来るかを考えることができた素晴らしい時間となりました。



11・12月第2例会（役員会）報告

出席者：河野、田村、藤生、平山、張、村田
田村、村田の各メネット

日時：11月8日（水）午後4時～

日時：11月23日（木）午後3時30分～

場所：田村副会長宅

出席者：河野、田村、藤生、平山、村田

両日にわたり話されたことの共通点と今後のことについてまとめた。

協議事項

1) 11月23日（木）午後1時30分から、遠山宗匠宅にて日本の文化を知ろう（茶道）と題して行う。準備等の手配は、田村暁美メネットに依頼。

2) 12月例会について

12月9日（土）午後6時から西那須野教会にて開催する。クリスマス礼拝と祝会を行う。礼拝は、潘牧師に説教、伴奏を木村眞喜子さんに依頼する。招待者は、養徳園、西那須野教会関係者、アジア学院

関係者、御園那須老人ホームの関係者、ユースリーダー等を迎えて行く。北東部大久保知宏部長の公式訪問とする。祝会は、テーブル席を作る。軽食は、サンドイッチ(卵、ポテト、レタス、ハム、ジャム)、シフォンケーキ、から揚げ、ポテトサラダ、団子、けんちん汁、お菓子、バナナ、コーラ、ジュース。準備は、西那須野教会に13時に集合。事前に家でできることをやって集合。必要な買い物は、村田が担当。ゲームは、ユースリーダーに依頼、椅子に座ったままで出来るゲーム。司会は第1部礼拝、藤生書記。第2部祝会、鈴木ワイズ。準備する人数については40名を想定する。

謝礼は、潘牧師10,000円。木村眞喜子奏楽者5,000円。クリスマス献金先は、アジア学院、御園那須老人ホーム、養徳園に各10,000円。那須YMCAユースリーダー会に30,000円。

3) 1月の新年例会について

1月20日(土)午後6時から行う。場所は、大田原の北海道料理「積丹」(中央町)。山田公平東日本区理事を迎えて、ユースリーダーに対する取り組みについてお話を聞く。参加費は、5,000円。リーダーは1,000円。

4) 12月・1月例会のゲストのお土産は、河野会長に一任。

4) 北東評議会に出席について

仙台で25日に行われる、北東部評議会には、河野会長が出席する。交通費補助として、5,000円を会計より支出する。

三島開拓地での孤児教育事業—本郷定次郎の生涯—(1)

副会長 田村 修也

はじめに

昭和26年8月20日に救世軍出版部から発行された、秋元巳太郎著「山室軍平の生涯」の73頁に次のように記されている。「明治25年の暑中休暇も、岡山孤児院のために盡したいと思い、まず箱根で開かれた第4回夏期学校に出席し、そこでも孤児のことを語り、それかた東京を経て群馬縣に入り、未だ碓氷峠のトンネルの完成しない頃であったから、横川からは草鞋穿で、てくてく歩いて信州路に入った。横川に、大越米吉という馬車屋の親分があり、基督者だと聞いて、彼を訪ねた。そして子分達のために説教し、一泊した上、山越ししたのであった。信州から更に越後に入り、會津から仙臺に赴き、押川方義に会い、西那須野では、育兒暁星園の本郷定次郎を訪問した。そこから、再び群馬縣に立寄り、

新潟から送って来た一人の孤児を伴うて、東京入りをすると、東京入ると、友人の渡米を見送りかたがた上京した、石井十次にバツタリ出會うた。」と記されています。

本郷定次郎が、東京から孤児たちと共に基督者であった青木周蔵の青木農場に入植したのは、明治25年4月であり、ある事情のために、その年の12月には、西那須野にある三島農場に移動しているから、山室軍平が訪問したのは移住して間もない頃であったと言える。

那須野ヶ原開拓史研究会の機関紙「那須野ヶ原開拓史研究」に、西沢道夫氏が搭載した「本郷定次郎の生涯」を紹介します。

三島開墾地での孤児教育事業—本郷定次郎の生涯—
西沢道夫

異様な集団

今、私の手許にある「那須野原暁星園農場」の写真をみていると、88年前に三島農場の一面に孤児の救済養育を目的とした暁星園が存在していたことに感動を覚えるのである。那須山が薄墨色に刷き、手に手に唐くわ、万能を持った少年達と五頭の山羊と馬一頭、やや年長の青少年、最前列に園主本郷定次郎の姿も見える。背の高い外国人は援助を惜しまなかった医師ホイットニー氏か、一様にみすぼらしい垢のついた筒袖の作業着を着ている。この60人ばかりの集団は、「暁星園農場」の標識柱を囲んで写真に撮っている。異様な一団という印象をうける。

こうした印象は私一人ではない。当時那須野が原開拓に赴いた移民達の中にあつて、食料も乏しく、やっと味噌汁に食べ残しの米粒を入れた雑炊で日夜を過ごしていた定次郎一団を先住民達は放逐の手段に出てきたのである。弱い暁星園に対するいろいろな迫害が加えられた。乞食、盗人とよばれながらも礼拝、農耕、雑事の生活をしているのを誰しも異様なものと見ていたようである。

「孤児院の父」と言われる石井十次がわが国初の孤児院を建てたのは1887(明治20)年9月で、中村正直訳「西国立志論」を読んで、靴職人ジョン・バウンズが細民街の子供たち500人の救済に活動した記事に感動し、自分が貧しいことはその事業の障害ではないと考えたからである。それから遅れることわずか5年で那須野ヶ原に「暁星園」が生まれた。1892(明治25)年4月のことであった。

設立者は本郷定次郎と妻ヒデで、定次郎は1866(慶応2)年11月2日、越前の敦賀で生まれている。父は理平といい江州長浜の豪農の出であるが、代々酒造業を営んでいた本郷家の養子となった人で、

日を定めて乞食たちに施しをするほど奇妙な志を持っていた。

定次郎はその二男であり、豊かな家に育った。4才の時母の死に遭った。父が再婚したあと、身体が弱かったため11才の彼は京都に送られ、保養されている。そして3年後には、父が死亡した。つづいて長兄源治郎が亡くなり、1883（明治16）年数え年18才の彼が家督を継がなければならなかった。（以下次号へ）

西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園

西那須野幼稚園

園長・理事長 福本 光男

地球について、映画「ダンス・ウィズ・ウルブズ (Dances with Wolves 1990)」のネイティブアメリカンの役タントウ・カーディナルは、「私たちの命、地球に対する概念は『生きている』です。自然に勝るものはありません。たとえそれが文明でも」と言っています。

そして、この夏、文明の恩恵にあずかっている私たちは、「地球温暖化」から「地球沸騰」とまで形容される暑さを体験しました。これに関連して、日本だけでなく全世界的な気候災害である大規模な洪水、山火事、干ばつ等が増加しています。そして、これらによる損失は、人命も含めて計り知れないものがあります。

さて、「1.5℃目標」という言葉があります。ご存じの方も多いと思いますが、これは産業革命前を基準として、世界の平均気温を気温上昇 1.5℃に押さえる努力を地球規模で行おうということです。

本園では、まだまだ十分とは言えませんが、「次世代に良い環境を残しましょう」と、前園長が補助金制度のないなか、二十数年前より太陽光発電に取り組み、現在は2機稼働しています。また、保育室とログハウスの暖房は、おがくずをペットフードの様に固めたペレットを燃料としたペレットストーブを十数年前より使用しています。遠赤外線の人懐かな暖かさという感じで、温度設定も出来ます。ペレットを燃やすと二酸化炭素(CO2)は出ますが、化石燃料とは違って、木は元々大気中の二酸化炭素を取り込んでいますので、それを大気中に戻すため二酸化炭素は増えないというカーボンニュートラルの取り組みです。ただし、薪ストーブと違って送風に電力を使いますので、100%とは言えません。

もう一つの取り組みについては、子ども達を自然

に導くことです。この地域は自然環境が豊かだと言われてきましたが、ずいぶん前に虫はいなくなり、園庭の虫の種類も減っています。子ども達は、自然と乖離した生活をしています。

神様は、ノアを通して、私たち人間に自然と共生する管理を委ねました。ある意味において、この自然は、次世代から預かっているものです。自然と共生するきっかけとして、管理された里山である「山林観察園」において、四季を通しての遊び体験は、子ども達にとってかけがえのない経験です。自然以外は何もないなかで、友達同士の遊びが深まっていたり、どんぐり1つをとっても、形の違い、実から根が出ていたりと様々な発見があります。このような経験の蓄積が、自然と共生する地球市民として成長するベースとなると考えて保育をしています。お子様が山林観察園に行った日、お子様とお話してみましょ。大人にも何か新しい発見があるかもしれません。

YMCAだより

【第18回とちぎYMCAインターナショナルチャリティーラン2023報告】

秋空の下、10月22日(日)に道の駅うつのみやろまんちっく村にぎわい広場を会場に、盛会のうちにチャリティーランを実施することができました。メイン競技の「たすきリレー」には26チーム・130名、「ファミリーラン」には67名、「スタンプラリー」には53名、「販売」には7ブース、「ボランティア・スタッフ」には170名、総勢487名の方々のご参加をいただきました。

今大会では、宇都宮ブリッツェン育成チーム「ブラウ・ブリッツェン」の宇賀神選手がランナーを先導してくださいました。よさこいグループ「勢や」は、5年ぶりに素晴らしいパフォーマンスを披露してくださいました。パフォーマーと共に踊る参加者には多くの笑顔がみられました。福祉施設の手作りの品、様々な団体の模擬店、ブースを周ってゲームを楽しむスタンプラリーなど、皆様でこのイベントを盛り上げてくださいました。



大会の収益金は、全国YMCA障がい児・者のグループ活動、とちぎYMCAで実施する2月24日～25日

の富士山キャンプなどに全額を使わせていただきます。この大会が企業と市民の協働として年々県内に拡がりを見せ、誰も健康で幸せな暮らしができる社会づくりの一助となることを願い、これからもご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

那須ワイズもこの事業にシイタケ昆布の販売と献金を行っています。

【とちぎYMCA ウィンタープログラムが始まります！】

11月7日（火）より、冬休みプログラムの募集受付が始まります。スキーキャンプやデイキャンプなど楽しい企画が盛りだくさんです。

是非、沢山の方にお誘い頂き、ご参加お待ちしております！

WEB 受付：11/7（火）～

【とちぎYMCA・那須YMCA 11月の予定】

- ・ 11/3（金） さくらんぼバザー@さくらんぼ幼稚園
- ・ 11/4（土） サタデークラブ@芋ほり・馬頭農村塾
- ・ 11/7（火） ウィンタープログラム申込開始日
- ・ 11/18（土） サタデークラブ@ハイキング・御殿山公園
- ・ 11/19（日） Yキッズ@野外炊飯・那珂川グリーンヒル
- ・ 11/25（土） サタデークラブ@ハイキング・御殿山公園

ユースリーダーのつぶやき（今月はお休み）

- | | | | | | | |
|--------------|--------|--------|-------------------|---------------------|------------|------------|
| 1. 名前（リーダー名） | 2. 学校名 | 3. 出身地 | 4. YMCAに入ったきっかけは？ | 5. 思い出に残った活動とその理由は？ | 6. 今後の進路は？ | 7. YMCAに一言 |
|--------------|--------|--------|-------------------|---------------------|------------|------------|

遠山宗匠師宅の地図

